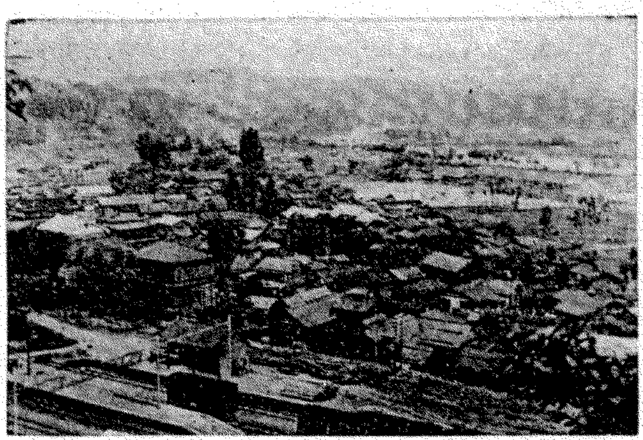
川口町公民館報
公民館報
第29号
編集人 関 平吉
発行人 真島 五郎
印刷所 山静堂印刷所

町の台所から
昭和33年度川口町予算の規模

一般会計
4,195万円

特別会計

国保	1,654万円
直診	405万円
東部水道	104万円
田麦山水道	31万円



大づかみですが昭和三十三年度の川口町の予算の内容を報告いたします。

予算にもいろいろありましてこれを大きく分けると、一般会計と特別会計になります一般会計とは特別会計を除いたすべての事業事務を含む会計のことで、特別会計とは特別の事業について独立採算制を立前として収支の経理をするため、一般会計から分離して設置する会計でありまして川口町にはこの特別会計は、左記のとおり四つあります。

先づ一般会計の才入から説明します。

一般会計

歳入

歳入のなかで大きなものは町税でありまして才入における百分比の四九%をしめていますなかでも固定資産税が一番大きく一、二一六万円、民税五〇六万円、たばこ消費税一三一万円、鉱産税七七万円その他の順となっています。

次は交付税の一、二〇〇万円で二八%強、三番目が補助金四九二万で一二%であります。その他才入も相当数ありますので次にその一覧表を記載します。

（単位万円）

一、町税	二、〇五七
二、地方交付税	一、二〇〇
三、財産収入	〇
四、負担金	四
五、使用料手数料	七五
六、国の補助金	四九二
七、県の補助金	三二
八、寄附金	七五
九、繰入金	七八
一〇、繰越金	一〇
一一、諸収入	三七
一二、町債	一三五
計	四、一九五万円

歳出

歳出については前年度より九〇〇万円増されました。このうちわけは、町営住宅十五戸建設失対事業の年間見積り、消防費のポンプ購入、産業経済の充実等の理由により増額されたものであります。予算の組方の根本方針としては、経常的経費を町政の維持管理に必要な最少限の範囲内にとどめ、できるだけ投資的経費（事業費）の充実に重点を払われております。では以下各款ごとに説明いたします。

議会費

九九万円

議会費は皆さんが選出した議員に関するすべての費用です。二十二人の議員さんの報酬、費用弁償、諸手当それに議会運営に必要な経費が計上されており、主なものをひろってみますと、

議員報酬	二九万円
諸手当	四〃
旅費費用弁償	三七〃
需用費	二七〃
研修費	二〃

となっています。

役場費

九五二万円

役場費は御承知のごとく川口町の事務の中心をなしている経費で、才出予算の中でも第二番目に大きく約二十二%を占めています。

このなかには職員の給料、諸手当、旅費などの外に町政運営に必要とする交際費、食糧費や役場の維持修繕費、事務費が主に組まれています。

また田麦山支所費や各部落の連絡員費もこのなかです。

消防費

二八五万円

三七四人の消防団員の報酬手当、旅費などの人件費のほかに消防ポンプ二台分六〇万円鉄の火の見櫓六基分六六万円、団服の購入一〇万円、防火水槽、ホースの購入費が主なるもので、この他に防犯関係の経費が一〇万円含まれています。

土木費

一三〇万円

土木費のなかには第一に道路、橋梁の維持修繕費及び新設改良事業が主なものです。

このほかに雪中道路料や渡船場の経費もこのなかで、融雪災害復旧費などは予算が不足する場合は追加されることになります。

教育費

七五五万円

教育費のなかを大別すると教育委員会費、学校費、社会教育費の三つになります。

教育委員会費とは、教育行政を執行する五人の教育委員とその事務職員に関する給与諸手当などの人件費と事務費であります。

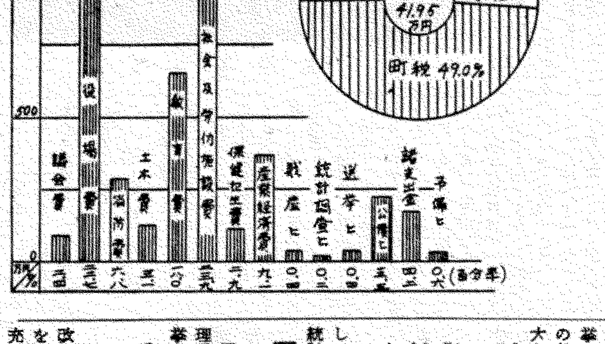
学校費は川口、田麦山の両中学校費に、川口、西川口、泉水、和南津、田麦山、木沢の各小学校の維持管理費及び事務費とそれに小使の給料などで先生の給与費は県から出るので含まれていません。

社会教育費は公民館の運営経費で前年度より二八万円増額されました。公民館だよりの発行費もここに含まれております。

このほかに教育諸費があります。これは主に各種負担金補助金でありまして、小出高校の通常運営費六一万円などが主なものです。

項目別に予算額をならべますと、

一、教育委員会費	八〇万円
二、中小学校費	五〇二万円
三、社会教育費	八二万
四、教育諸費	九一万



社会労仂施設費

一、〇〇四万円

七五〇万円前年度より増加しています。その主なものは失対事業費の増と、公営住宅建築費を当初予算に計上したためであります。

この款の内容は民生委員関係費や援護費、児童福祉費に遺族会や未亡人会、戦傷病者会の補助を見込んである厚生関係費と失業対策事業費、公営住宅建設費となっています。

この項目別金額は次のとおりです。

一、厚生費	一五万円
二、児童福祉費	九万円
三、援護費	三三万円
四、失対事業費	三六〇万円
五、住宅費	五八三万円
六、その他	五万円

保健衛生費

一二三万円

一万町民が常に健康で明かるい文化的生活を営むためにはいろいろの病気、特に伝染病や結核をなくしなければなりません。もちろんそれにはその病気の発生源である、ごみの処理、ハエ、カ、ねずみの退治とともに予防注射や時折健康診断をしなければなりません。

これらのことを行うのが保健衛生費です。

又小高の簡易水道の助成もこの費目からでます。

産業経済費

三七八万円

農業と商工業の振興費がこの費目です、農道を新設したときの助成金や、農業改良、土地改良、病害虫防除対策費等が主でその他林業、漁業関係の経費となっています。

申しおくれたが皆さんが選挙した農業委員会の経費もこの款であり、商工業振興費も大きく含まれております。

財産費

一八万円

町有財産の維持管理費です

統計調査費

七万円

この経費は町政執行資料として農業、商業、工業などの統計調査に必要なものです。

選挙費

一九万円

選挙事務を管理する選挙管理委員会費と衆議院議員の選挙費です。

公債費

二二五万円

町が学校を造ったり、道を改良したり、水道、公営住宅を造ったりしたときの経費に充てるため国の許可を得て起債した元利償還金と一時借入金の利子であります。

国の許可を得て借りた長期債はその事業が完了してから向う十年乃至二十年の間に均等償還するもので借入先は大蔵省又は郵政省であって利率は年六分三厘という安いものです。許可する場合、国はその事業の性質を十分調査して公共的効果が多い場合だけとなっておりますのでみだりに借入れることはできません。

諸支出金

一七五万円

この予算のなかで主なものは国保会計や診療所会計にだす繰出金の八〇万円に納税完納報償金三二万円の他公共事業振興経費などであります。

予備費

二五万円

予算外又は予算超過のときに使途する経費です。

計 四、一九五万円

以上、一般会計の才入、才出の概要を説明しました。

この予算のなかの投資的経費（事業的経費）の含入率は四三%です。しかしこれが一ケ年全部の予算ということではなく、学校統合建設費や、その他新らしい事業、災害復旧費伝染病防止費等どうしても必要とされる費用は、歳入財源のゆるす限り今後追加予算に計上されることになります。

特別会計は紙面の都合上後日にまわして一応一般予算の説明を終りたいと思います。説明が簡単でお判りにならない点もあろうかと思いますが御不審の点や詳細の説明を必要とするお方は御遠慮なく申出て下さい。

愛犬はつないでおきましょう

四月一日から飼犬取締条例という新潟県条例が実施されました。

犬による傷害は年々増加しており、県内でも昨年は七八〇件、小出保健所管内でも二〇件ありました。

そこでできるだけ飼犬が人に危害を加えることを防止するためにこの条例が生まれたわけです。

条例によって守らなければならないことは次の事項です。

1.飼主は、犬を捨てゝはならない。

飼育をやめようとするときは、もよりの保健所へその犬を引渡さなければならない。

2.飼主は、犬を常にけい留しなければならない。但し次の場合はけい留しなくともよい。

1.警察犬、狩猟犬をその目的のために使用するとき。

2.人に危害を加えるおそれのない場所及び方法で飼犬を訓練し、又は移動するときこのことを守らないと一万円以下の罰則がありますから御注意下さい。

オメデタ

川口町荒谷	宮 作三
〃	平沢 サト
神奈川県川崎市	荒木 博
峠	星野 チイ
堀之内町明神	渡辺 清喜
和南津	丸山 光江
川口	関 久男
〃	佐藤 夏
山梨県韮崎市龍岡町	小倉喜久雄
原新田	山田 キミ
相川	山崎 昭松
千葉県夷隅郡勝浦町	岡沢 房江
新潟市東大山町	星野太郎吉
木沢	星野 リツ
岐阜県大垣市南頬町	加藤 進
川口	目黒ノブ子
木沢	小林 達雄
東京都江東区北砂町	鶴貝 昌子
小千谷市薭生	岩淵 敬雄
和南津	上村 一江
中山	星野 敬郎
南魚沼郡六日町	安藤マツヨ

中学校卒業生を送る

義務教育九ヶ年の才月は人生における地固めの時代です地固まった沃土に適地を得、種を落とし、根を張り、やがては花も実も結んでいくのです。

諸君の卒業は、諸君や家族の人達のみでなく、町民一同の喜こびであり、前途[illegible]いものであります。

家業に従う者、故郷を離れて職に就く者、更に上級の学校に進む者と、それぞれ辿る道は異るわけですが、高く理想を掲げて、着実に人生の一こま一こまを刻んで下さい。

実社会に直ちに入る者にとって、現実の社会は諸君の期待と予想を無惨に裏切るものであるかもしれない。学校時代の教科書の理論に不信の念を抱くことがあるかも知れない、しかし、諸君はその理想と現実とのへだたりの中に身をおぼれさせてはならないのです。諸君が九ヶ年に体得した学業の成果を土台にして自信をもって現実の問題にとり組んでほしいものです。「足下を更に掘り下げる。さらば泉湧かん。」とは哲人ゲーテの言葉です。周囲の刺激や誘惑に打ちひしがれることのない強力な意志で自分の与えられた仕事に精を出すことです一心不乱にがんばることです実社会は考える程甘いものでなく、自律的に精進努力して始めて勝利を得るものであることを認識してほしいものです。

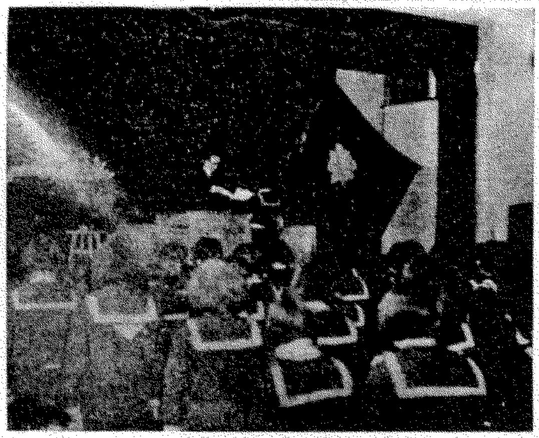
諸君は新しい時代の人間です。しかも九ヶ年の教育によって社会の諸現象を批判する力は相当ついている筈です。その力で現状の不合理を改革することは勿論大切なことですが、人生の機微をなめて来た先輩の言動にも学ぶ点は多いことと思います。これで勉強は終りという安易な気持を捨てて、本当の勉強の第一歩はここから始まるのだという自覚に立って虚心に学びとる努力を続けて下さい。

幸い高等学校に進学出来る諸君は、わが身の幸せに感謝して、家族や社会の期待に応え得るよう一層勉学に励んでほしいものです。

故郷のなまりなつかし
停車場の人混みの中に
そを聞きにゆく

村と借金で追われるように故郷を立ち去った啄木にとっても、ふるさとは、かけがえのないなつかしい里だったのです。卒業後、異郷に住む多くの諸君の感慨に相通ずるものがあると思います。諸君の父母や兄弟は、諸君と別れたさびしさの反面、今度会見る時の成長ぶりを早くも胸に抱いていることでしょう。

町制を施行し、石油の町として発展の途上にあるこの町の将来に栄光をもたらすであろう諸君の前途に心からの祝意を表し、諸君の健斗を祈るものであります。



▲昭和三十三年度各校学級編成▼

1 小学校

学校名	一学年 児童数	一学年 級数	二学年 児童数	二学年 級数	三学年 児童数	三学年 級数	四学年 児童数	四学年 級数	五学年 児童数	五学年 級数	六学年 児童数	六学年 級数	計 児童数	計 級数	教員数
川口小学校	六二	二	七二	二	八二	二	六六	二	六二	二	四九	一	三九三	一二	一三
西川口小学校	四三	一	四一	一	五三	一	五五	一	五四	一	三七	一	二八三	六	七
和南津小学校	一二		二一	一	二一		一六	一	一八		一五	一	一〇三	三	四
泉水小学校	四六	一	三九	一	四六	一	六四	二	四六	一	四六	一	二八七	七	八
田麦山小学校	二七	一	三八	一	三三	一	三七	一	二五	一	二二	一	一八二	六	九
小高分校	七		一一	一	一四		一三	一	八		六	一	五九	三	三
山の相川分校	六		五		一一	一	一一		五		四	一	四二	二	一
木沢小学校	一六		一九	一	二二	一	二二	一	二二		一四	一	一一五	四	五

2 中学校

学校名	一学年 生徒数	一学年 級数	二学年 生徒数	二学年 級数	三学年 生徒数	三学年 級数	計	計 級数	教員数
川口中学校	九八	三	一二八	三	一五二	三	三七八	九	一四
木沢分校	一四		一八	一	一五	一	四七	二	三
田麦山中学校	三三	一	二五	一	三五	一	九三	三	五
山の相川分校	三		三		七	一	一三	一	一

……四十年の使丁生活にさようなら……
役場 星野さん 退職される

「アニ」「ツァマ」の愛称で親しまれていた我が町役場の星野使丁さんが去る三月三十一日限りで退職された。

星野さんは大正八年四月一日に川口村使丁となったのだから満三十九年勤めたわけである。この間八人の歴代村長、四人の代理助役に仕え、非常に強い体力と健康に恵まれた、誠実な人柄をもって平和のときも、戦争のときも懸命に勤めあげ、新潟県町村会から一回、川口町から二回、優良使丁として表彰を受けている。

今回の退職は大変惜しまれているが、速やかに健康を回復されて余生を長く送られるよう心から念ずるとともに、もう一度御苦労様でしたと申し上げ、併せて今後の御多幸を切にお祈りしたい。

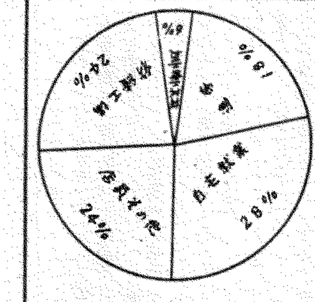
巣立ちゆく中学生

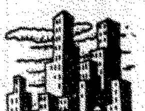
去る三月二十日午前十時より、川口中学校に於ては第十一回の卒業式を挙行。町長殿代理、教育委員長殿、町内の多数の来賓、百余名のPTAの皆さんに祝福されて、九ヶ年の義務教育を無事終了した百四十二名は、大いなる希望に胸をふくらませて、新しい人生の荒波の第一歩を踏み出した。

卒業生を志望別に見ると

自宅就業	四〇名	（二八%）
店員その他	三四名	（二四%）
機械工業工員	八名	（六%）
紡績工場	三五名	（二四%）
進学	二五名	（一八%）
計	百四十二名	（全卒業生）

この数字に示すように、大半はすぐに職を得て社会人としてのつとめをするものであって、高校に進学してより高い学識を身につけようとするものは甚だ少い。





特権を守ろう
―民主々義の―

公明選挙

人間は誰しも自分に与えられた権利を力強く守りぬくことに対しては異存はない。働いた報酬は労仂の価値だけ必ずほっする。与えられた財産は何んとしても守りぬこうとする。然し乍ら無意識のうちに与えられた権利を放棄していることはないであろうか。

幸運の女神は後頭がハゲである。選挙権の行使こそそのことが云い得るのではないか、社会人のうち、ある一部の人達に絶対にないとは云いきれない。一度行った投票は取り返しのつかぬものである。持ったはきかない。

誰もそう考えているのだがいざとなるとなかなかそのことがわからない。

むしろ野球見物が若の花、朝汐の勝負を見るような興奮を覚えて飛び廻っているのではないか。そこへ困ったことに札ビラが飛び政治に弥次馬的興味を持つものが追撃をかける。利得と興味とスリルを追って正に後楽園か国技館の様ソウを呈して来てはもう完全に特権の放棄を余儀なくされるものが何人か出て来るであろう。

こうなっては如何に立派な政治家が出ても政治はうまく行かない。民主政治の根本は寛容と話あいと討論と正しい民意の判断にまつ点がもっとも重要である。これを最後に決めるものは投票と世論であろうと思う。明治の民主々義者中江兆民は、「昔の政党は主義で争ったのに今の政党は金銭で争っている。昔の政党は藩閥政治と偶千里も離れていたのに今の政党は人民と何千里もはなれている。」と六十年前に云っている。今はそれ程でもないであろうが全々ないともいはれない。これは誰の罪でもない選挙民個人個人の罪ではなかろうか。もっと冷静に客観状勢をながめて自己に与えられた民主々義の権利を出来るだけ有意義に行使したいものである。

自転車・荷車税廃止

古い沿革をもつ自転車、荷車税が昭和三十三年度から廃止されることになった。

明治、大正のころは、自転車といえば、現代の自転車と同じように一種の文明の利器であったし、主要な運送手段であったが、いまや空に音速をしのぐジェット機や人工衛星のとびかうときこれらはもう日常必需品と化したという理由から廃止されたわけである。

〃詩二篇〃

ぼくの家

金がない
お茶がたえた
米売ってきて
お茶買ってた
之が僕の家の
生活だ

（中学生の詩）

夕方

「行って来た」っと
車をどさんと下した
「風呂たてねえ
たきものがねえから」
かっかはいった
がっかりして
へとへととして
わらつちのひもも
とけやしねえ

（中学生の詩）

【教員異動】

	新任校	旧任校	氏名
転出	小千谷吉谷中	川口中	石坂晃一
	柏崎枇杷島小	西川口	藤田甲子雄
	小千谷小	和南津	菊地正俊
	堀之内小	西川口	中沢健典
	宇賀地	川口小	星名茂治
	見附葛巻小	川口小	姉崎直志
	見附今町	木沢小	武藤節子
	新発田石川小	泉水小	斉藤富山
転入	西川口小	糸魚川中	布施芳衛
	〃	田戸小	横山正
	川口小	田川小	篠山仁吉
	西川口小	小千谷若栃小	山ノ下克利
	木沢小	福山小	小池ヒナ
	田麦山小	東小千谷中	関市郎
	木沢小	三島西越小	小林誠一郎
	泉水小	小千谷小	保科清
休職	西川口小		矢口徳枝
退職	木沢小		広井嘉治
新採用	川口小		刈部光雄

石油資源開発会社が語る

―開発計画―

田麦山油田

川口は石油の町として新聞やラヂオで全国的に知られ始めているが、地元の人達は色々の事を聞いて知つていることと考えられるが、今後の見透しと現在までの状況を資源開発会社の計画を聞いてみた。

◉沿革

最初は大正六年三月宝田石油が綱掘とロータリー式で試掘をしたが、当時の掘さく技術では深度九百十一米までに三年三ケ月の歳月を要し、結局途中でガスと若干の油気をみただけで、大正八年五月廃坑として引揚げた。その後昭和十六年二月日石は、ロータリー式で一一〇〇米を掘りこれもガスだけで終つてしまつた。

その後数日に亘る地表調査の結果、有力な探掘候補地として注目を浴びたが、豪雪地帯であり道路工事に困難があり未着手のままとなつていた。昭和三十年石油資源開発会社が設立され、資源開発五ケ年計画に基いて田麦山油層を有力候補地としてとり上げ、三十一年度事業となつたものである。

三十一年七月二十四日着工現在までに七本試掘したうち一、三、五、七号の各坑より自噴の成功を見た。

◉深度と油量の概算

●第一号井　深度一、二〇〇米から一、三五七米までの間日産三二キロリットル揮発油分五六、三%の優れた軽質原油である。

●第三号井　深度一、二三〇米日産六〇キロリットル

●第五号井　深度一、二八四米日産六〇キロリットル

●第七号井　詳細は知られていないが今迄の試掘中一番優秀な成績を収めているとのことである。

◉田麦山油田

内ケ巻駅構内

30Kl揚タンク

将来の計画

掘さく

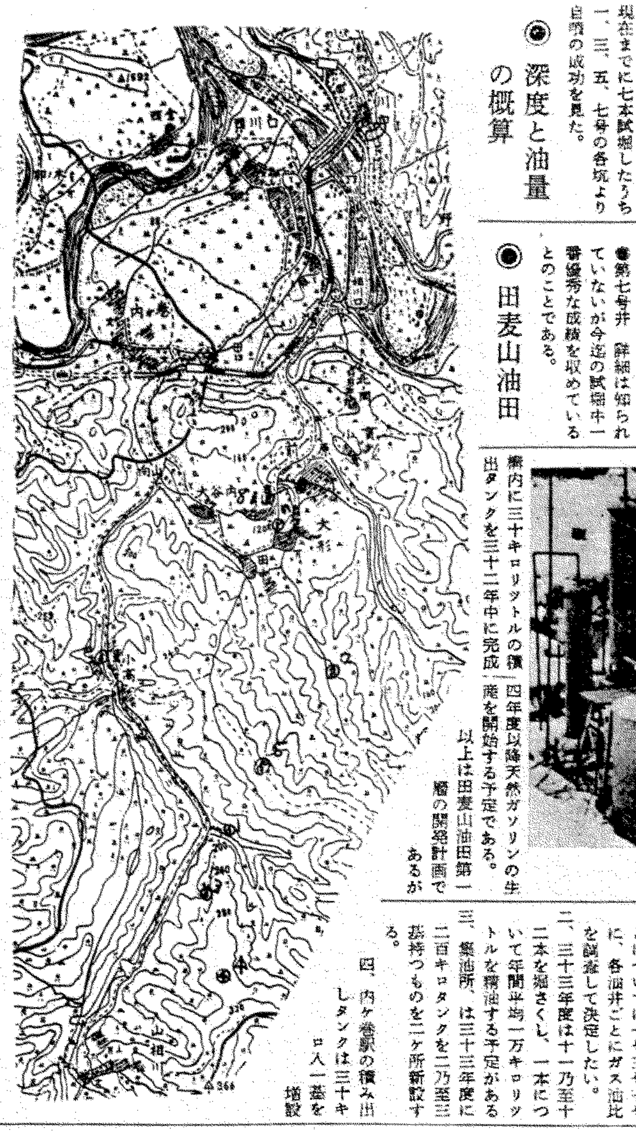
昭和三十五年度でいちおう掘さくを終了する予定であるが掘さく坑数は、既に掘さくしたものも含めて試掘三本、探掘十本採掘三十九本計五十二本である。

生産

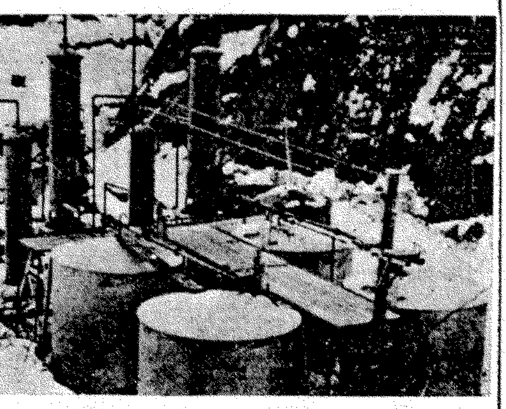
一号井の基地内に第一集油所、第一集油所から内ケ巻駅構内の原油積込タンクまで五千三百米のパイプライン、又構内に三十キロリットルの積出タンクを三十二年中に完成したので、一月から一、三、五、七号井から夫々試験採油を実施し、三十三年度以降本格的な生産段階に入る予定である。

更に将来は、三百キロリットルタンクを有する中央集油所の外、七ケ所の集油所を建設するが生産量のピークは三十五年度の年間五四、七五〇キロリットルを予定している。原油と併せて生産するガスは揮発油分を含む良質ガスであるので、三十三年度中にガソリンプラントを建設し、三十四年度以降天然ガソリンの生産を開始する予定である。

以上は田麦山油田第一層の開発計画であるが第二層第三層の埋蔵量の確認は、第一層の開発と併行して行う予定である。さらに深部七谷層（三千米以上）以下の含油層準も予想されるので、これらの深層開発が成功した場合は日本有数の油田になるものと期待がかけられている。



- ① 1号井、3号井
- ② 2号井、4号井（廃坑）
- ③ 5号井
- ④ 6号井（廃坑）
- ⑤ 7号井
- ⑥ 小高宿舎
- ⑦ 田麦山事務所及宿舎
- ⑧ 田麦山支所
- ⑨ 集油タンク（内ケ巻駅）
- ……油送管
- ⑩ 川口町役場



第一集油所全景

東京で語る　松沢所長談

非常に雪の多いところで、まるで南極観測隊と同じような難工事を行つているが、それでも雪崩れの危険のあるときは避けれない。と前置きして差当り三十三年度計画を次の様に語つた。

一、五ケ井は日産九十キロの採油ができる有力な油であるが台帳的に採油を行うことについては一号三号七号に、各油井ごとにガス油比を調査して決定したい。

二、三十三年度は十一乃至十二本を掘さくし、一本について年間平均一万キロリットルを精油する予定がある。

三、集油所、は三十三年度に二百キロタンクを二乃至三基持つものを二ケ所新設する。

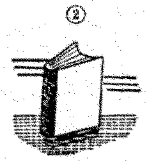
四、内ケ巻駅の積み出しタンクは三十キロ入一基を増設する。

五、集油所と内ケ巻駅間の三インチパイプラインは一日二百五十キロまで送油が可能であるから、三十三年度には増強する。

六、原油がきわめて優秀な軽質原油で、ガソリン分が多いから、一日当り一万五千立方米の処理可能なガソリンプラントを新設、工業揮発油ベンジンが生産したい。

七、掘さく機械は全部国産品を使つている。

役場の窓口から ②



総務課

㈡ 改名について

戸籍の窓口へよく名前を改めたいと相談に来る人があります。御両親がつけてくれた名前でも、自分の気に喰わない、はずかしい、或は姓名判断で言われた等の理由で改名を希望するわけです。名前が自由に改名できたら便利のようですが、又反面、詐欺も多いのであります。犯罪助長のけねん、社会生活の混乱等が大きく考えられるためです。

しかし絶対に改名が許可されないというのではありません。次のような理由の中では許可されることがあります。

1同地域内に同性同名があつて、社会生活上甚しく支障があるとき。

2僧侶又は神官となつて俗名では支障のあるとき。

3営業上の目的から先代の名を襲名するとき。

4珍奇な名、外国人にまぎらわしい名等、甚しく支障のあるとき。

等で具体的事実について家庭裁判所が許可するものであります。その手続き等は戸籍の窓口へ御照会下さい。

㈢ 婚姻届について

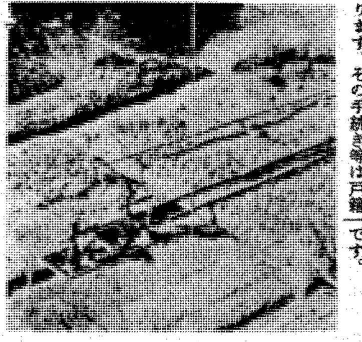
男は満十八才、女は満十六才になれば結婚する事が出来ますが、満二十才にならないうちは父母の同意が必要です。

結婚式を挙げ婚姻届をする際お願いしたい事は、若し新郎か新婦の本籍地が川口町にない場合は、ない方の戸籍抄本をその方の本籍地から取り寄せて必ず提出していただきたい事です。又他市町村に花嫁を送る場合は川口町役場（本籍地）から戸籍抄本を、とつぎ先に送つてやつて下さい。尚婚姻届には新郎新婦の印鑑と成年に達した二人以上の証人の方が必要ですから、その方々の印鑑も必要です。又婚姻届の際夫婦の協議により自由に本籍地を定める事も出来ます。夫婦の氏も協議でどちらの氏でも選択出来ますが、第三者の氏を称する事は出来ません。

婚姻届書受理により、父母の戸籍からぬけ出て夫婦について新らしく戸籍が編製されます。

死別、離別による女の方再婚の場合ですが、前婚の解消の時から八ケ月を経なければ再婚出来ない事になつていますから御注意下さい。

婚姻は戸籍管掌者（市町村長）に対する届出によつて始めて完全に成立するという事です。



1号井及3号井……

……………自噴装置

川口	真島　利男
十日町市	柳　千鶴子
栃木県鹿沼市	榎倉　實雄
相川	広井　ミイ
荒谷	平沢三太郎
木沢	小林　ヒロ
小千谷市薭生	和田　陽一
武道窪	阿部　タツ
小千谷市小栗山	黒崎　武司
木沢	星野　トヤ
牛ケ島	丸山千代松
〃	江島　アイ
北蒲原郡紫雲寺町	島津　勇
相川	星野　キノ
原新田	小宮山武次
群馬県利根郡月夜野町	斎木　春代
原新田	小宮山克己
南魚沼郡六日町	中島フヂエ
牛ケ島	平沢　良彌
〃	江島　フミ
神奈川県川崎市	山田　浅次
中山	堀沢　ヨネ
木沢	星野　良栄
静岡県静岡市	新海　静代
小出町	青柳　公一
和南津	小林　睦子
川口	甲野　幸吉
広神村	高橋　トク
柏崎市吉井	桑沢　正俊
川口	岡村　節
川口	中林　実
十日町市	佐藤　トミ
西川口	小西伊勢治
小千谷市山本	吉田トシイ
西川口	浅間　作一
小千谷市岩沢	長谷川チヨ
西川口	浅間　實
〃	関　ハル
広神村	桜井　万二
中山	平沢　トラ
小千谷市岩沢	水落　久蔵
相川	石坂　昭子
小千谷市薭生	大塚勇佐吉
牛ケ島	平沢ユキエ
相川	井浦　久二
〃	山崎　キヨ
原新田	小西　作松
東京都目黒区	上方　富久

雪の祭典……

町民スキー大会開かる

中山スキー場開き

待望の中山スキー場開きを兼ねた、公民館主催第一回町民スキー大会は、去る三月九日午前九時半から同スキー場で約二千人の大観衆を迎えて盛大に挙行された。この日前日までの荒天もからりと晴れ上り、然も日曜日とあつて朝早くから子供達に手をひかれた親子連れが続々と会場につめかけ、会場の整備等で各役員はテンテコ舞い、やがて開会式に続いて小学生の距離競技から大会の幕は切つて落された。我が子は如何に……と早くも観衆からは激しい声援が飛び交わされ、前にのめつて転ぶもの、スキーがはずれて片足でゴールに入るもの等子供達でなければ見られない珍風景に会場は大変なさわぎ。続いて中学生から一般に入るとさすがは腕ならぬ足に自信のある面々、団体の選手にも負けない見事なレース振りに絶賛の拍手を送つていた。この頃からアルペン競技場では一部の小・中学生、二部の一般と二会場に別れて回転競技が始つたが、平地では子供達のミカン拾いや、パン拾い競走と盛沢山のレースに大会気分は正に最高潮、上は四〇才台の壮年層から小学一年生まで三百名を越える選手団の妙技、珍プレーに観衆も、この雪上の祭典にすつかり陶酔の形、午後に入つてからは中学生男女と一般をまぜたリレー競技や、特別種目としてのジャンプ大会に最後の声援とばかりヤンヤの拍手が贈られ、かくして午後三時全種目を無事に完了し、全員の万才三唱をもつてかつて見なかつたこの大会の幕をとじた。

これ程盛大になろうとは思わなかつただけに主催者側も大喜びであつたが、然も一人も怪我人が出なかつたことはまことに喜ばしいことであつた。この大会を機会に本格的なスキー場の建設が強く要望され、更に大会が年々盛大となるよう切に希望したい。

主な入賞者は次のとおり。

最も子供達の興味をそそつたみかん拾い競争　まさにみかんを拾わんとする一瞬

スキー大会も久し振りの晴天に恵まれ [illegible]……

各種目共一位
旗わきり
一回山田和夫　二回渡辺義正　三回渡辺久夫　四回大渕孝一　五回堀沢誠　六回佐藤あさ子
五〇〇米　一、二年　渡辺よしまさ
〃　三、四年　小宮山あきら
〃　五、六年　覚張忠夫
一〇〇〇米　一般　スキー部
一回広井實　二回井渕光行
パン拾い
一回渡辺よしまさ　二回渡辺庄作　三回戸塚行雄　四回関正勝
ミカン拾い
一回中林たかし　二回樋田俊一　三回中林光治　四回古田島明夫　五回山吉かずし　六回人渕晃一　七回星田暢　八回堀沢誠　九回星野みつる　十回渡辺さち子　十一回関孝志　十二回梅沢博
回転　小学生　覚張定男
〃　中学生一般　広井徳治
ジャンプ　木村直治
回転　中学生

菜根談抄

魚返善雄訳

退職するなら
羽ぶりのよい時

就職するなら
競争のない場所

恩をほどこすなら
返さぬ人にほどこせ

公民館によせて

中林ヒロ

私は当町へ参りまして未だ丸三年しか在住致しませんので、本当の意味の公民館なるものを云々する資格もありませんが、私の結婚も公民館のお世話になつた御縁で偶然私の感じました事を一寸書かせていただきました。

今迄の公民館の御活躍はよく陰ながら存じて居りましたが何かしら一部の人だけの公民館利用と云う様な気が致し一般の人が公民館の存在をかけ離れた存在？としか見ていないのではないでしょうか。なかにはまだ公民館に対する理解と、利用にも全然関心を持たない人もありましょう。一般大衆が親しみを持たないのか公民館の存在が一般大衆にとけこまないのか何れにせよ今迄の公民館は利用範囲がせまく親しめなかつた。

町民の為の公民館である以上町民の片隅の声にも時には耳をかたむけ、必要性は取り上げて実現化させていただき度い、そして町民の各層に利用出来る多角の面からの社会教育として出来る限り色々の事を実現化させて欲しい。

時代の進歩と共に公民館の思想の進歩性も是非必要だと思います。

よりよい町に公民館の職員の皆様の努力をお願い致します。

公民館職員の皆様へ

結婚に関する条例

……木沢部落生活簡素化運動……

木沢部落では、部落協議会を開いて、出来るだけ因習を打破して無駄をはぶいた新しい生活様式を打ち立てるべく話あいを進めているが、とりあいず結婚式に関する条例を定めて部落の総会にかけ、承認を得て三月一日より実施することになつた。

生活簡素化の一番の障害となることは、よその人達や部落のつながり等で誰か思切つて少しずつ整理？を欠いて勇ましく実施するかにかゝつている。

勇気をもつて実施することが望ましく又他の人もこのことをよく理解して応援することが望ましい。

条例

第一条　結納は出来得る限り金銭とする
第二条　結納見は一切廃止する
第三条　嫁の荷送りは当事者間で事前に行う
第四条　嫁の衣裳見は一切禁止する
第五条　嫁入道具は一切飾らぬこと
第六条　寸振舞は一人当り最高三ツ盛とする
第七条　前条の客の手持品は米一升分迄とする
第八条　道中の送り迎え酒は廃止する
第九条　式の時間は開始から三時間以内とする
第十条　前条に於ける嫁の衣装換えを禁止する
第十一条　本膳は一人当り最高五ツ盛とする
第十二条　前条に於けるツボ、ヒラは任意とする
第十三条　本膳の客の手持品は二升分迄とする
第十四条　招待客の人数は最少限度とする
第十五条　招待客は一軒一回限りとする
第十六条　式後のシビガランジを禁止する
第十七条　披露宴は「第六条」と同じとする
第十八条　夜は嫁見を禁止する
第十九条　道中及び式の「嫁の衣装」は借り衣装とする
第二十条　馳走は頂いても他へ配ることを禁止する

以上

施行昭和三十三年三月一日
二月十八日
区協議委員会代表　印
区民各位殿

○右記条例の目的は、結婚式の費用を極力節減して、これを他の方向へ転換して経済生活を営もうとするものであります。従って此の条例は、結婚式の最高標準を示したもので、此の標準以下の簡素化を行うことを奨励するものであります。此の趣旨を御理解の上、積極的な御協力をお願い申し上げます。

農業振興策について

第二十七号（一、一四）続き

川口町農業協同組合長　星野藤一郎

扨て前号に於て適地、適産的に分化した地域単位の集団生産農業の必要と、それにともなう商品生産農業の重要性を述べましたが、それでは商品生産農業を発展させるには如何なる条件が必要かが問題になります。

今日の商品生産農業は土地と労力があるだけでは、とうてい望めない、それには高度の技術と資本が必要になつてきます。

農業技術も科学的に日進月歩はして居り、各方面即ち肥料会社、農機具会社、農薬会社、薬品会社からそれぞれ生産施設や、資材が供給されています、此の肥料一つを見ても多種多様であり、然も完全な使用については、高度の技術が必要になつて来ます、農機具然り、農薬然り、栽培技術も然りであります。

これ等技術の修得が完全に出来て、附随して資本の投下の必要を増大させます。

こんな色々の資本の計画的使い方が農業経営能力の中で重要な部分を占めています。

過去に於て、此の様な技術や資本を供給して、商品生産農業の発展を推進したのは商人である事が多かつたのです。

此の点農民としてよく考えていただきたい。

吾々農家は、農業経営を改善してゆく為に適地、適産的、集団的に農業経営計画をたてることの仕事の中で何を作るかという事、何を作れば土地に適した作物で然も売れ行きの良い品物であるか其の為にはどんな施設や資材をえらぶかの検討、計画が当然必要であります。（これはただ単に作物ばかりではない、畜産、養蚕と総てを作物に例題して言つているのであります）

そしてどれだけの肥料、農薬を使い如何なる機械を使つてどれだけの利益を生むかの計算をしてみる事が大切であります。（本年川口町の一部落をモデル部落に指示して畜産面からの指数計算をする計画であります）。

「資金の準備」。「計画しただ施設や資材を手に入れる」。「それを上手につかいこなす」「技術指導を受ける」。「協同利用　共同作業を進めていく」事が必要であります。

今日の農業は物を作るだけの農業ではない、作つて売つて金にする即ち商品生産であります。

収穫から選別、乾燥、荷造りを良くして、規格統一した大量の商品を仕上げる必要があります。其の農産物を一層有利に販売する為に貯蔵あり加工あり、輸送（安い地帯より高い地帯へと）がありがす。

以上の様な経営改善は、個々の農家の力ではうまくゆきつこありません。必然的に、全国的に組織力をもつ協力なる農協を育成しなければ振興策はとうてい望めぬので、其の責任を痛感しております。農家各位の覚醒を望む次第であります。

母親大会

古田島フク

中林ひろ子様の公民館活動に対する御熱意ある御意見、非常に有難く拝見いたしました。私共関係者も限られた予算内で出来るだけ広い範囲の町民の方々に喜こんでいただける活動をしたいと念じて居ります。その一つとして、川口町の母親達が手をつなぎ、明かるい町、住みよい町をつくるために協力したいという心で昨年三月十日第一回の母親大会、今年は三月三十日第二回を川口中学校で左のプログラムに依り開催いたしました。あいにくの大雪でしたが熱心な会員の方々は定刻十時に百五十名も参集して下さいました。

プログラム
1. 開会の辞　午前十時
2. 国歌斉唱
3. 会長挨拶　婦人会長連絡員　古田島フク
4. 来賓祝辞　郡福祉事務所長
5. 討議　司会未亡人会長　細川シマ
　昼食
6. 講評指導　中越社会指導主事　北原先生
7. 映画
8. 閉会の辞　午後四時　農協婦人部長　古田島ヒナ

議題　一、子供に信頼される母親となるように結論いたしましよう。二、明かるい平和な家庭の建設に努めましよう。三、社会人としての修養につとめましよう。各討会者の下に各部落代表者一名ずつが永い間の尊い体験を通じて、成長した子供達のよい相談相手となるため、継母の立場から子供達の個性尊重して楽しい明かるい生活を建設して行くこと、主人不在中多数の子供達を養育して行く苦心。家庭円満は中老の方々が社会性を持つべきだ、婦人会と敬老会の間に中老会が是非必要だ、等意見が沢山出て予定一時間はまたゝく間にすぎてしまいました。

昼食時間三十分で午後〇時半から北原先生から指導講評していただきました。先生はこうした会合は県内でも珍らしい意義ある会合益々発展して下さいと申して下さいました。

終りに多大の後援をいただきました公民館、農協の方々に深く感謝いたします。

役場事務分担一部変更

四月一日付で町役場の事務分担の一部が次のように変更された。

産業土木課を産業課と土木課の二つに分け、産業課長に櫻井喜治、係員真島早苗、山田タツエ、山田栄作（農地主事）桜井仁夫　土木課長心得関玉男、係員古田島友一郎　野口和幸を配した。その他教育委員会係金子真　小宮山シヅ　税務課係員佐藤誠　社会課係員山田正子

中心街に町名きまる

川口町の中心部東川口地区では、この度の町制施行を機に住民大会をひらき、次のとおり新しく町名を決定した。

本町一丁目　二丁目　三丁目
河原町　大島町　栄町　駅前通り　曙町　仲町　嘉富町　東町

今後はできるだけこの新しい町名を呼称してもらいたいと関係者は語つている。